

仁瀬本神楽奉納会



900年から1000年前に始められた仁瀬本神楽。一度は途絶えた神楽だが、1785年に仁瀬本神社の拝殿と神楽殿が新築されるのにあわせて復活させ、それから約220年あまり代々引き継がれています。以前は三瀬本地区内の民家を神楽宿として夜通し神楽を行っていました。現在は三瀬本コミュニティセンターを神楽宿として、1月の第3土曜日に三十三番の演目をダイジェストで奉納しています。



高畑年祢神社神楽

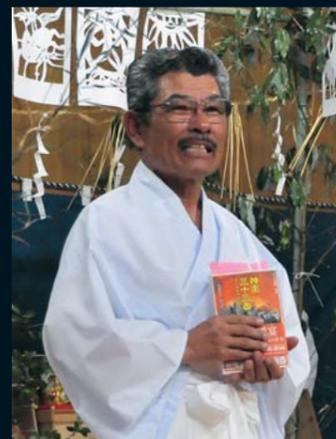
白石神楽



白石地区では明治の中期ごろ火災などの災難が続出していました。この災難を振り払うために宮崎県の五ヶ瀬町に伝わる神楽を当地区で開催されている白石お天道さん祭りの際に奉納したのが起源と言われています。後継者不足から昭和55年ごろにいったん途絶えてしまいましたが、平成17年に7人の有志により神楽を復活。さらに、復活から5回目の神楽祭りでは三十三番全ての神楽を復活させました。現在は11月の第4土曜日に毎年奉納を行っています。



300年から400年前に高畑地区に宮崎県の北方地方から伝わったといわれる神楽であり、現在でも年祢神社では春と秋に田植え踊りや神楽の奉納が行われています。御神楽三番を中心に神楽を今日まで伝えてきたが、舞手が高齢になり舞手も年々少なくなり、およそ30年前から途絶えていました。平成22年になり、念願の若い舞手7人が新加入。現在



保存会会長の甲斐律男さん

は17人で活動をしています。地元に残る伝統文化を何としても残し、後世へ伝えていきたいと意欲を見せる若手に負けては行かないと話す保存会会長の甲斐律男さん。そして遂に今年の2月1日には、長年途絶えていた夜神楽の復活を成し遂げました。「夜神楽を後世へ伝えていくことも大切だが、それをきっかけに地域住民が一堂に集まり、お酒を飲みながら夜通し語り合う。それこそが、この夜神楽に込められた本当の目的です。いつの日か、三十三番ある演目を全て舞えるよう、これからも頑張っていきたい。」と甲斐会長は話されました。